

2019年12月22日 (第193号)  
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会  
〒760-0074 高松市桜町1-8-9  
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484  
Email  
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp  
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp  
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp  
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



# カトリック 高松教区報

**マザー・テレサの言葉**  
最大の悪は、愛の欠乏、隣人愛の欠乏です。最大の善は、隣人に対する、ぎりぎりの生活をしている人々に対する、搾取されている人々に対する、そして貧困や病気にさいなまれている人々に対する、恐ろしい無関心です。

## イエス様の「降誕 おめでとう」がこえます

「まぶねのイエスさま」に膝をかかめ、  
神の国を見い出すことができるように

使徒ヨハネ 諏訪榮治郎

イエス様のご降誕おめでとうございませう。

幼いころ夜中12時の降誕ミサに与るため、姉と一緒に雪の積もった夜道を必死に歩いたのを思い出します。

真夜中の明るい荘厳ミサでは、侍者として所作を間違わないように、祈りどころではなく、緊張の連続でした。

しかし真夜中のミサが終わると、仲間と徹夜で遊ぶことが許されていた楽しい教会行事でした。毎年ミサの奉仕をしながら、荘厳ミサの中でしみじみと祈ることができるとはいつだろうと、考えていたものです。

毎年祝われるイエス様の誕生・その祝いを中心から理解したいと考えるようになったのは神学生になってからのことでした。ある年のクリスマス、「イエスの小さき

姉妹会」のシスターが小さなスライド映写機をもって東京の山谷(日雇い労働者の方々の町)で、イエス様の誕生をお話になったとき、感動されたあるおじさんが「お姉さん今の話ほんとう?」と聞かれたのです。シスターは即座に「ほんとうです」ときっぱりと答えられました。

会場は涙にあふれていました。「主のまぶね」の前に思いを巡らせます。そこに父なる神のいつくしみがあふれます。およそ人間の思いを超えた父なる神のおんはからいに触れるのです。

少しでも認められたい、少しでも自分を飾りたい、と願う私たちの内なる思いを打ち砕くように、ひそやかに、隠されて父なる神の心は結晶したのです。ただ

その時に、追いやられていた「羊飼いは幼子に会い喜びにあふれたのです。幼子の生涯は父なる神のみ



旨に従順でした。しかし人々は十字架をもって神の子を捨てたのです。しかるに父なる神は「これこそわが愛する子、私の心にかなう者」として消えることのない永遠の光をお与えになり、復活されたイエスさまに満たされた教会が生まれたのです。以後2000年の教会の歴史は聖霊に導かれた「改革の歴史」を歩んだのです。らせん階段を歩むかのように「イエスさま あなたは何を生きたのですか?」を問いつつ、神の国、み旨を探し求める旅を続けているのです。

## 2019年教区民のつどい

今年度の教区民のつどいは、世界宣教の日である10月20日、司教座聖堂桜町教会に200人以上の高松教区信徒が集まって行われました。

中島町教会 山崎佳子  
2年間の「福音マーケッ ト」の分ち合いを、小教 区、地区、ブロックで終え、これからの新しい関係の 奉仕者として「私達は何が 出来るだろう!何がしたい だろう!何をしようとする のか!現在の活動を継続 しつつ、分ち合いを通して これからの方向性や取り 組み等を紹介する為に集ま ってきた教区民の日。 あっという間に聖堂は四 者も集中して聞いている姿 が多く見られ、うれしく感 動しました。15組の発表の 中にはICC(ベトナム、 フィリピン)の紹介もあり、 通訳が入り、若者の日本人 への思い、又真面目に働い ている事が伝わってきました。彼(彼女)らは良い宝 を沢山持って日本に来てい ると感じました。 インターネットの急速な 進歩によりネットで繋がる ことがこれから重視される

## 信徒の思いを伝える —社会とともに歩む教会をめざして—

全国各地からの信徒でいっぱいになっていました。 午前中、各地区、プロッ ク、小教区による15組の発 表がありました。私達は 聞きっぱなしではなく、発 表の合間にテゼのうた、黙 想と、祈りと共に進行して いきました。発表は自由で したので、レジュメを配布、 プロジェクターを使っ の発表、口頭はもちろんのこ と、工夫された内容発表と なっていました。傾聴して いく中で、どこの教会も分 ち合いを重ねてお互いの 意見を交換しながら今日に 至ったのだと思うと胸があ たりに奉納された名札が渡



## はばたき

11月23日から四日間、フランシスコ教皇が日本に来られました。教皇は私たちと世界中の人々に大きな喜びと重大なメッセージを与えてくださいました。その教皇と私たちが最も誇りに思っているのはイエス・キリストです。

復活ののち、弟子たちに現れ「あなたにわたしを愛するか」と三度もペトロに問われたイエスは、私たちにも同じように問われているにちがいないのです。神の無条件の愛を告げ知らせることに、唯一の関心をもたれた方が、たつたひとつの問いを私たちに問われます。「あなたはわたしを愛するか」と。あなたは何を成し遂げたか、どんな成果を示すことができるのかということではなく、イエスと愛の関係にあるかだけが問われているのです。私たちは初めの頃の熱心な愛を、イエスとの愛の交わりに欠けるなまぬるい信仰生活を送ってはいないでしょうか。

この孤独と絶望が支配する世界には、真に神を愛する人が求められています。神を愛する人は、赦す人、疑いや復しゅう心・憤り・憎しみの影のない人、えこひいきせず、全ての人をただひたすらに愛し、愛されることだけを願う人です。神に信頼しようとして、深い苦しむ人です。そういう人はどこにいても、和解、いやし、新しいいのちをもたらすことができるでしょう。

イエスを愛する者、イエスの心を知る者とさせていたくださいませう。

最後になりましたが、ご降誕と新年のおよろこびを申し上げます。

教皇フランシスコ  
発表を聞く機会が与えられたことに感謝して。  
(4ページに、発表グループテーマ掲載)



# 教皇フランシスコ訪日

## すべてのいのちを守るため

11月23日(土)から26日(火)の4日間、教皇フランシスコが日本を訪れました。教皇の訪日は1981年の教皇ヨハネ・パウロ2世以来です。

高松教区では、長崎と東京で行われる教皇ミサへの参加巡礼を企画し、長崎でのミサには約120人、東京でのミサには約40人が参加しました。

### ↑24日長崎でのミサ

#### 賛美と感謝に満ちた祭儀 新居浜教会

マリア・インマクラダ 手嶋直美  
私は、この度の巡礼に愛媛地区より参加させて頂きました。老若男女が集まりバス2台に分乗し出発です。フェルナンド神父様、川上神父様、シスター方も居てくださり、祈りの中温かな雰囲気恵みの時間を皆で分かちました。神様のはからいが確かにありました。

三崎港からフェリーに乗り、大分に到着。九州を横断する形で長崎の平戸サビエル記念教会に着きました。其の教会の山村神父様がお忙しい中いろいろと説明して下さり、最後は皆で主の祈りを唱え、聖フランシスコと殉教者に思いを馳せました。



日差しが降り注いでいました。教皇様は、特別仕様のオープン車で、笑顔で会場を回られました。祭壇の横の被爆マリアに一礼され、ミサが始まりました。会場の3万人の人々、来たくても来れなかった人々の様々な想いが祈りとなり、賛美と感謝に満ちた祭儀になったと思います。

2日目は、待ちに待った教皇ミサです。午前中はどしゃぶりの雨でしたが、誰も文句を言わず、会場の県営野球場に向かいました。ミサ前には、青空に変わり、

途中、平戸サビエル記念教会に巡礼しました。坂の上の教会までゆっくり登っていくと緑と白のコントラストの清々しい外観が見えてきました。お聖堂に入り、岩崎神父様のご指導で静かなお祈りのひと時を頂きました。

平戸のホテルに着いたのは午後6時頃、もう辺りは暗かったですが、その後、美味しい夕食の御馳走をいただきつつ、にぎやかに初めてお会いした人達と分かち合いました。

11月24日午前7時、平戸にお別れし長崎へ向け出発しました。外は暗くてよく見えない。

9時過ぎ、長崎市内に入ると本格的な雨だと分かり、カッパを着て入場証を各自受け取り、同時に貰ったゲートに入場証を差し入れ首につるしました。

閉祭で高見大司教の感謝のおことばがあり、教皇による派遣の祝福を受け、全会衆が神に感謝してミサは終了しました。

最後にになりましたが、旅行会社の方々、バスの運転手さんなど、様々な形で巡礼を手伝って下さった方、留守を守り送り出してくれた家族と兄弟姉妹にも感謝です。主の平和

《訪日教皇ミサ in 長崎》に与るといふ目的を持って、高松司教区の高知・徳島・香川からの40人がまとまって移動することになったのでした。高山神父様のお見送りを受けました。

良いお天気でした、バスは瀬戸大橋を渡り山陽道をひたすら西へと走り、関門橋を渡り九州に入りました。

正面のスクリーンの左後方に太陽が輝き始めたのです。丁度その時、会場がざわめき大きな歓声が沸き起こりました。教皇がご入場されたのです。ガラス無しの外枠だけのカーポートに乗り、右手を振って私達の視線の高さで通路を進んでいかれました。一斉にスマホを持つ手が上がり、二つの国の小旗が盛んに振られました。

最後になりましたが、この度の旅行を無事に終えることが出来たのは《名鉄観光サービス》の楠さん、ガイドの野上さん、《高知駅前観光バス》の2人のドライバーさんの御蔭です。皆様に心より感謝申し上げます。有難うございました。

書の内容、手荷物検査、そして簡単な身体検査。その歩みは遅々として進みません。

### ↑25日東京でのミサ

#### ピパ・フランシスコ 丸亀教会 香川法子

坂出ドミニコ会の修道女、3人の元気がいっぱいの子どもたちも一緒に、33名の信者が瀬戸大橋を渡り、教皇ミサに与かるため東京ドームへと向かいました。

「パパ様到着までに、オIRECT ALL LIFE」の時のしるしを、皆さんで練習しましょう。一緒に歌いましょう。音楽が流れ繰り返していくうちに、一つの歌は一つの心となって、全体的な違いを超えて大きな一つの群れになっていきました。

「これが、カトリックの姿だ！」と、目頭が熱くなりました。



©CBCJ



遠方には見えませんが、白い波のうねりはとどまることを知りません。祭壇前の椅子が次々と埋まっていくのを、大型スクリーンが映し出しています。司祭不足は本当なのだろうか、と思わせるほどの光景でした。





でしよう。『ビバ、パパー、ビバ、パパー』気が付くと私は自分の声だけが届くと信じて、叫んでいました。どの叫びの声を、パパ様の耳に届いているのに。こんなにも一人一人の心に向き合い、熱くさせる教皇フランシスコという方は、やはり神様が私たち人間に遣わして下さった、神の人だと実感しました。

この方が語られる言葉、思い、行いは真実です。『私たちが手にしているものは、良いことも悪いことも、全て神様からの恵みです。自分の力で手にしたと思っていることも、そうさせて下さったのは、神様からの恵みです。』とパパ様は、いつも仰います。教皇ミサに与らせて下さったことも、恵みなので、快く送り出してください。家族、教会の人々、教皇訪日のために関わって下さった全ての人たちに深く感謝したいと思います。そして、何よりも、訪日を強く願って下さったパパフランシスコに、心から有難うございます。ビバ、ビバ、パパ！

### あなたは神さまに愛されているんだよ

桜町教会 多田美佐江  
2019年11月25日、午後3時30分すぎ、5万人の大歓声の中、大勢の神父さま、司教さま、枢機卿さまが、ミサ会場巨大な東京ドームに入ってこられました。そして、ついに教皇さまが、ゆつくりとオープンカーで会場内の通路をすすんでいかれます。

大勢の人が喜びと感動の声をあげ、また、祝福を願って赤ちゃんや幼い子供を差し出します。そのひとりひとりを優しくあたたかく祝福されます。

そんな時間の、なぜかある一瞬、電流が全身を走りました。「あ、この方は今の子だけ1人だけを見ておられる、群集ではなく、勢の人がいて、さわいであるの、その瞬間はただ1人だけを。」

これは私の勝手な思い込みかもしれませんが、教皇さまはそんな事も意識しておられないかも。けれどそれでも私はこの思い、感覚を大切にしようと思えました。

神様は一人ひとりを愛し、大切にされている。これは何度教えられ、知っています。けれど、本当にそれを自分の実感として毎日あじわっていたかどうか？ たとえ何万人何千



©CBCJ

### 教皇フランシスコ訪日日程

- 23日(土) 司教との集い (東京ローマ教皇庁大使館)
- 24日(日) 核兵器に関するメッセージ (長崎爆心地公園) 日本26聖人殉教者への表敬 (西坂公園) 教皇ミサ (長崎県営野球場) 平和のための集い (広島平和記念公園)
- 25日(月) 東日本大震災被災者との集い (皇居) 天皇陛下との御会見 (東京ドーム) 青年との集い (東京カテドラル聖マリア大聖堂) 教皇ミサ (東京ドーム) 首相との会談など (官邸) 26日(火) イエズス会員とのプライベートなミサ (イエズス会S Jハウス) 病氣・高齢の司教を訪問 (イエズス会S Jハウス) 上智大学を訪問 (東京国際空港) 別れの式 (東京国際空港)

### 障害者支援施設「たまも園」

桜町教会 ルチア 三宅詠子

香川県高松市、市街地より少し南にある田村町に、障害者支援施設「たまも園」があります。入所者は100人程のうち桜町教会の信者さんは女性ばかりの6人。ベッドで寝た切りの人、ストレッチャーで移動の人、車いすに乗っていても自力で動かせない人など皆さん重度の方ばかりで、月1回神父様を交えて集会を開き聖体をいただいています。言語障害の重い人とは50音のボードを使っての指差しによる会話や、パソコンで連絡を取りあっています。1階は住居ですが2階はパソコン室・作業室・地域交流室がある自由空間で、私たちはここでおしゃべりします。

### 大島青松園訪問に思うこと

桜町教会 パウロ 立浪敏男

初めて訪問したのは、昭和39年の？歳の時、信者で無い私が、徳島教会の一員として、大島青松園勤務経験のある方の引率により訪問をした。その時の感想は、ハンセン病は怖い病気という印象で、教会の入口も患者とは別であり、聖堂内の座る椅子も区別され、手すりも触らないようにと注意された。その強烈な体験の元に、十年程前、香川県内のカトリック教会の有志の方々が、継続的に訪問している、その内の一人から、入所中の信者である患者から、「新築の病室への移転」の手伝いの旨を伝えられ、その方と訪問すると、患者との対話が全く自然体で対話でき、三十年以上の経過が、大島青松園の環境を大きく変化したことが分かった。それは、昔と異なり、目の前に近づいて、久しく話すことが出来る。時代の変遷により、治療法も確立、患者への対応も良くなり、入所者方の安心した生活へと変化があったのだからだと思います。

### 社会とともに歩む教会をめざして

のだからだと思います。

やか会」のメンバーです。その頃受洗したYさんは、たまも園で自治会活動をし、さらに20年前に福祉オンブズ香川を立ち上げ、人権侵害を訴え、30年間暮らしたたまも園を出て自立し、今ヘルパーさんの力を借りて13年間一人暮らしをしています。手が不自由な彼女は口に棒をくわえ、すごい速さで入力しますし、パソコンを駆使してオンブズの活動を発信しています。勿論、集会にも参加しています。

以前は、信徒数が多い時は、桜町教会の神父様中心に主日のミサを捧げておられたようです。最近、月1回ペースの訪問です。ミサの後、患者一人一人の面談が最近の訪問の内容です。現在、信者は2名で、高齢で衰えも早くなっているのが現状です。患者に対する印象は、昔と異なり、近づいて心からの対話出来る、患者の昔話を伴いながら、現在の心境も伺えます。しかしながら、ハンセン病の発病は幼年期のようです。小さい時の思い出をよく話され、何とも言えない感情を起こします。感染してからの生活は、隔離されて、親戚からも疎外され、孤独の中に人生を送って来られたようです。訪問する私たちの心構えは、寄り添う心を持たなければなりません。私たちが慰められるのは、彼らの笑顔です。最近、5曲ほど連続で歌っていただき、びっくりしました。その笑顔の中に神様の慈しみを感じます。

最後に、以前目にしたある障害者のかたの美しい一句を紹介します。知りませんでした、知りませんでした、十字架でのあなたの苦しみか わたしのためとは このわたしのためとは

帰りの船中での私の心は、喜びで満たされているのが昨今の現状です。



地区・ブロックの話題

愛媛地区  
青年ら17人が堅信

松山教会 濱田麻里子  
諏訪榮治郎司教様をお迎  
えして11月17日、私たちの  
教会で4年ぶりに堅信式が  
行われました。中学1年生  
から大学生、合わせて15人  
と成人2人が、司教様から  
堅信の秘跡を授かりました。



今年6月から準備  
を始めましたが、中  
高生たち全員が揃う  
ことはとても難しく、  
川上神父様の勉強会  
に來られない人は朴  
シスターが補習をし  
てくださり、みんな  
が揃って堅信式を迎  
えられるよう配慮し  
ていただき堅信準備  
を進め、当日は  
受堅者、代父母、  
家族と50名を超える関  
係者と大勢の松山教会  
信徒に見守られながら  
の式となりました。



式後、お祝いの会食  
後、諏訪司教様と中高  
生受堅者との交わりの  
時間を急遽設け、司教  
様から「本当にあなた  
は誰ですか？」という  
問いかけや司教様の青  
年の頃の経験談を聞く  
時間を過ごしました。

堅信の秘跡を受け、これ  
から自分の信仰を自ら歩ん  
で行く若い彼らにとって、  
この司教様との交流は進む  
道を照らすものとなるでし  
ょう。  
また、若い人の教会離れ

教区スケジュール

- 11月  
12日(火) 司祭評議会 10:00  
16日(土) 宣教司牧評議会 13:00  
24日(日) 王であるキリスト 教皇訪日ミサ(長崎)  
25日(月) 教皇訪日ミサ(東京)
- 12月  
1日(日) 待降節第1主日  
9日(月) 無原罪の聖マリア  
16日(月) 責任役員会 13:30  
25日(水) 主の降誕  
29日(日) 聖家族
- 1月  
1日(水) 元旦 神の母聖マリア祭  
5日(日) 主の公現祭  
12日(日) 主の洗礼  
12日(日) ~13日(月) 司祭・助祭の集い in 塩江  
18日(土) ~25日(土) キリスト教祈祷一致週間  
18日(土) 宣教司牧評議会役員会 13:00  
26日(日) 年間第3主日「世界子ども助け合いの日(献金)」



マリッジ・エンカウンター (ME) とは?

結婚生活における夫婦の関わり、つまり今までの二人の生活、お互いの相手に対する態度、家族と自分との関係、お互いの希望、悲しみ、喜びなどを夫婦で見つめ直し、結婚生活に新しい息吹を注ぐ事を目指しています。

結婚生活の神秘と、お互いの深い絆を実感する大きな喜びの体験となっています。

マリッジ・エンカウンターはカトリック教会の夫婦・司祭・修道者を中心に、世界90ヶ国以上の仲間たちと共に推し進められています。

教皇ヨハネ・パウロ2世は、「私はマリッジ・エンカウンターに期待をしています。」と仰いました。

また教皇フランシスコは、先頃の世界家庭大会の中で「家庭が将来の教会を築く」事を確認されました。

ME公式ホームページ= <http://www.wwme.jp>

マリッジ・エンカウンター・ウィークエンドのお知らせ

週末の3日間(2泊3日)を利用して、結婚生活をもっと豊かにするため、2人で将来を見つめるひとときです。

開催予定: 2020年2月22日(土)夜8時~24日(月)夕方

会場: 聖カタリナセミナーハウス(松山市)

主催: ワールドワイド・マリッジ・エンカウンター(WWME)

四国コミュニティー

※司祭・修道者・片方が未洗者のご夫婦も、参加可能です。



また、ミサの後で信徒会館に場所を移し、愛  
優美さんとお父  
さんのダンス  
の後に、次々と  
信者もうれしさ

が言われる中、松山教会にはこんなにも若い人がいることを自覚し、彼らが喜びを持って信仰生活を送れるように、ともに歩んで行く道を私たちが示すことができると祈りと共に活動できたらと願ってやみません。

西讃ブロック  
晴れて成人式を迎えて

丸亀教会 太田 修

11月24日(日)丸亀教会では久しぶりに明るい、うれしい出来事で盛り上がりました。ペルー国籍のお父さん、お母さんからは、おめかしした愛優美さんとご両親が、ミサの中で神父様から祝福を受けられ、お父さんからは「アレルヤ」と熱唱され感動の一場面もありました。



また、ミサの後で信徒会館に場所を移し、愛優美さんとお父さんのダンスの後に、次々と信者もうれしさ  
を顔に若いお嬢さんとダンスに興じました。そしてご両親から用意されたごちそうを頂きながら、安村さん一家を祝福する楽しいひと時を過ごしました。  
来年は、次の妹さんが順番を待っているそうです。

教区広報委員会からのお知らせ

広報委員会では、主に、教区報の発行、ホームページの運用管理を行っています。

私は桜町教会の長谷川聖と申します。前広報委員長谷口助祭の後を引き継ぎました。よろしくお願ひします。今のところ、広報のメンバーは徳島教会の伊丹隆司さん、桜町教会の谷本知枝美さんと私の3人です。伊丹さんと谷本さんがインターネット関連を担当し、私が教区報の発行を担当します。

今、各地区ブロックから広報委員を選出していたくよう依頼しています。年6回発行される教区報や随時情報が更新されるホームページの運営のために頻りに顔を合わせるのには難しいので、メールやSNSなどインターネットを使った打ち合わせや情報共有ができる方をお願いしています。

また、各地区ブロック・各小教区の評議会には教区広報への協力をお願いします。教区報やホームページなどで紹介できる人・物・行事等を、広報委員を通じて広報委員会にお知らせ下さい。

ホームページには、司祭・助祭・修道者のウィークリーメッセージを掲載しています。ぜひご覧ください。

教区民の集い 発表グループとテーマ

- 宇和島教会 宇和島教会での福音マーケットと活動報告
- 八幡浜教会 献堂70周年聖堂の解体・小聖堂再建の中の小共同体のあり方
- 松山教会 カトリック松山教会の現況~教会が福音の奉仕者として具体的な活動につなげるための模索~
- 道後教会 福音宣教への道後教会の取組事例
- ICC フィリピン 日本の教会に招かれて
- 今治教会 外国人と共に信仰の継承、活性化する教会
- 高知地区 交わりを大切に~無関心ではなく関わりを大切に
- 西条教会 西条教会の現状と今後の方向性について考える
- ICC ベトナム 日本の教会に招かれて
- 阿南教会 心をつなげて
- 西讃ブロック(観音寺、池田、伊予三島) 皆で作ろう私たちの教会
- 徳島教会 徳島教会の今
- 青年 青年活動(教皇来日にあわせて分かち合い)について
- 鳴門教会 次の一歩に向けて私たちの共同体ができること
- 西讃ブロック(坂出、丸亀、普通寺) 教区の日のため分かち合い
- 東讃ブロック(桜町、番町、三本松、小豆島) 外国人との交わりを深める共に歩いていく